7月7日登録認定証授与式リポート

　　　　　　　　　　　　　　　　　渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　事務局長　　浅　野　正　富

7月7日午後1時45分から3時まで、ルーマニア・ブカレストのラムサールCOP11会場「国民の館」内のプレジデントホールで、環境省主催のサイドイベント「ラムサール条約湿地登録認定証授与式」が開催された。参加者は約100名。環境省野生生物課の亀澤玲治課長とラムサール条約事務局のアナダ・ティエガ事務局長の挨拶の後、今回登録された9か所の条約湿地のうち6か所を代表する7名に対し、アナダ事務局長から登録認定証が授与された。

認定証の授与を受けたのは、与那覇湾の関係では沖縄県宮古市の下地市長、円山川下流域・周辺水田の関係では兵庫県豊岡市の中貝市長、東海丘陵湧水湿地群の関係では愛知県豊田市の太田市長、中池見湿地の関係では福井県敦賀市の河瀬市長、立山弥陀ヶ原・大日平の関係では富山県立山町の舟橋町長、そして渡良瀬遊水地の関係では、栃木県小山市の公認NGOの渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会の楠通昭代表と栃木県栃木市の公認NGOのわたらせ未来基金の青木章彦代表世話人の7名。

認定証の授与の後、7名がそれぞれ挨拶し、渡良瀬遊水地の関係では、楠氏が2006年からの登録署名活動をはじめとする登録推進活動が実を結んでの登録の喜びを語り、青木氏が足尾鉱毒事件をきっかけとして遊水地化された100年後に生物多様性の宝庫と評価されて渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録された歴史的意義を語った。

渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会では、登録を記念して4市2町の地元団体・個人に協賛金を募り、日本語・英語版二通りのポスター、パンフを製作した。お披露目となったCOP11の会場では、ポスター・パンフを飾る遊水地の素晴らしい写真に参加者から溜息が漏れた。また、楠氏から、小山市大久保市長が託した地酒「小山評定」を贈られたアナダ事務局長は、思いがけないお土産に思わず笑みをこぼしている。

2010年9月に渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会が栃木市で主催したシンポジウムに招かれ、コウノトリの野生復帰までの取り組みを講演した豊岡市の中貝市長は円山川と渡良瀬遊水地が期せずして同時登録になったことを喜び、楠氏、青木氏と一緒に認定証をかざして記念写真に収まった。円山川下流域と渡良瀬遊水地が同時登録の条約湿地として今後さらなる交流を深めて行くための固い絆が認定証授与式の会場で確認されたのである。

そして、渡良瀬遊水地の関係で授与式に参加したNGOのメンバーは、楠氏、青木氏を囲み、今回の登録の喜びを爆発させた。COP11のブカレストの会場から、いよいよ治水と湿地保全・再生の両立を目指す渡良瀬遊水地の新しい歴史が始まろうとしている。